

命を救う仕事を体験

市内中学生職場体験



▲20メートル先の建物までロープを渡る

市内の中学校のうち、水口、城山、土山、甲南の各中学校の2年生を対象に、6月から7月上旬にかけて市内の事業所での職場体験が行われました。

その中で、水口中学校5名が甲賀広域行政組合水口消防署を訪れ、火災の予防業務やさまざまな訓練などを体験しました。

6月26日に行われた救助訓練では、訓練塔の高さ7メートルまでをロープを使って登る訓練や、水平に張られたロープを渡る訓練、また熱を探知する機器によって真っ暗な部屋の中から人を助け出す訓練などを体験しました。

生徒たちは、水口消防署の隊員にサポートしてもらいながらも果敢にチャレンジし、改めて命を救う仕事の大変さを身をもって感じていました。

第21回鈴鹿馬子唄全国大会

郷土の民謡で自慢ののどを競う

第21回鈴鹿馬子唄全国大会が6月17日、あいの土山文化ホールで開催され、地元をはじめ県内外から、一般96名、少年少女43名の計139名が出場し、自慢ののどを競い合いました。

大会に先立ち、審査員、組織委員を務められ、長年にわたり郷土の民謡の継承と普及に尽くされた民謡歌手の成世 昌平氏に、中嶋市長から感謝状が贈られました。

決勝では緊張感が漂う中、出場者は日頃の成果を発揮し、またアトラクションでは、成世さんが講師を務める「鈴鹿馬子唄学習塾」で練習を重ねている土山の4小学校児童が合唱を披露しました。来場者の中には一緒に口ずさんでいる方もおられ、民謡を通して会場が一体となっていました。



▲馬子の衣装で合唱する土山小学校児童

市内の入賞者は次のとおりです。(敬称略)

○少年少女の部		○一般の部	
4位	リゅうおう まさふみ 竜王 将史	9位	きむら ひかる 木村 光
6位	よなくら ななこ 米倉 なな子	10位	たみ しゅうじ 民 翔志
7位	きたばやし えいじ 北林 英治	4位	たなか ちづる 田中 千鶴

列車に乗って七夕の旅

信楽高原鉄道「たなばた列車」

信楽高原鉄道で6月30日と7月8日に、「たなばた列車」が運行されました。

同社は、季節に合わせて様々な企画列車を運行しており、今年で12年目を迎える「たなばた列車」は、毎年市内の子どもたちをはじめ多くの乗客で賑わいます。

七夕の笹飾りなどで装飾された列車内では、オカリナサークル「和」による七夕にちなんだ曲の演奏などもあり、乗客は、願い事を書いた短冊を笹に飾りつけたり、心地よいオカリナの音に耳を傾けたりしながら、いつもとは一味違った列車の旅を楽しんでいました。



◀願い事がかないますように

また同期間中、信楽高原鉄道開業25周年を記念して、地域の方が各駅に笹飾りを設置し、色とりどりの短冊が乗客を出迎えました。

教習コースで学ぶ

交通ルール

甲賀自動車教習所で6月11日、交通安全教室が開催され、柏木小学校1年生児童34名が教習コース内を实际に歩いて交通ルールを学びました。

この教室は、「地域の交通安全センター」として地域の方にも交通安全を学んでもらおうと、同教習所が毎年場所を提供しているものです。

ビデオでの学習の後、信号機のある交差点などを通る150メートルほどのコースを教習所の先生の指導を受けながら歩きました。

教習コースということで、実物の自動車なども登場し、児童らはその距離感や大きさを目や体などで感じながら、しっかりと手を挙げ、事故から身を守る方法を真剣に学んでいました。

柏木小学校交通安全教室



▲安全を確認しながら交差点を渡る児童

甲賀市地域福祉大会



▲劇団ふりいだむによる「ごんぎつね」の熱演

市と市社会福祉協議会が共催する甲賀市地域福祉大会が6月23日、忍の里プラザで開催され、福祉団体の関係者など約500名が参加しました。

オープニングイベントでは、障がいがある人もない人も一緒に演じる「劇団ふりいだむ」による「ごんぎつね」が上演され、心打たれる内容に、会場は暖かな拍手で包まれました。

その後、「たすけられたり たすけたり」をテーマに講演や市内2地域などの事例発表が行われました。

会場では、東日本大震災の被災地の現状をボランティア活動を通して体験談や歌で伝える「ジョイントミニライブ」が行われたほか、啓発コーナーなども設けられ、身近な福祉活動について学ぶ機会となりました。

地域福祉の充実をめざして